

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス (MOBA)

第2回藻場再生・創出・技術実証ワーキング 議事概要

1. 日 時：令和6年12月20日（金）10時00分～12時15分

2. 場 所：三井住友海上大阪淀屋橋ビル

3. 概 要

(1) 開会挨拶 ～ 大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課 橋田課長

(2) 議 事

1) 事務局からの報告

- ① 大阪府の活動内容及び予定（資料：01-①-1～2） 大阪府（和田総括主査）が説明
- ② 兵庫県の活動内容及び予定（資料：01-①-3～4） 兵庫県（加茂班長）が説明

【意見交換の内容や会員からの発言等】

- 大阪府の調査結果を公表してほしい。データを今後の参考にしたい。
- 藻場の生え方を簡単に評価する方法があるといい。簡便に定量化まで行うことは難しいが、水中ドローンなどの機械も発達しており、今後、定量的な評価もできるのではないか。
- 緩傾斜護岸の浅いところでは、今後、水温の上昇も気になる。海藻に関しては、秋口の水温の上がり方が遅くなっているのが地域によっては問題になっている。
- 海藻の種糸は地域のものを使いたいとの声がある。地元の漁協から種糸を入手するほか、地域の海藻に影響のない範囲で移植するという方法もある。
- これから藻場の面積を広げるためには波当たりの弱いところも考えないといけないと思うが、浮泥との関係性も見ていく必要があると思われる。実証試験に磯掃除を含めるなどすると有効なものが出てくるのではないか。

2) 既存取組の紹介（各企業・団体の担当者が説明）

① ENEOS（株）「堺泉北港における藻場創出（令和4年度～）」

【意見交換の内容や会員からの発言等】

- 湾奥部の人工護岸で、岩礁性の海藻ではなく、アマモ着生にチャレンジするにあたって、事前に海底を整えるなどの工夫を行ったか。
- 海底に貝殻が溜まっている状況であれば種を投げ入れても砂地に入ったかわからないので埋めてみるといいかもしれない。貝殻が溜まるような場所は避けたほうがいい。
- 普段は穏やかな海であるが、月2～3回ほど原油船が来たときにタグボートが出ることで巻き上がる可能性があるかもしれない。

3) 会員からの連携の呼びかけ

- ① 泉大津市「実証フィールドの提供」
- ② 大阪府立環境農林水産総合研究所「大阪府沿岸域に存在する藻場における炭素貯留効果の実態把握」
- ③ (株) BLUABLE「Blue Carbon Sink 事業－海岸生態系ブルーカーボンによる気候危機へのアプローチ」

④ イノカ（株）「大阪湾における渚フォーラムの創設に向けて」

4) 会員・会員連携による取組検討

第1回ワーキングの振り返りと今後の進め方（資料：01-④）大阪府（和田総括主査）が説明

【意見交換の内容や会員からの発言等】

- 環境省の事業を活用できる。令和の里海づくりの事業は沿岸部の藻場・干潟づくりなどに、良好な水環境保全・活用の事業は森里川海のもう少し広い活動に活用してもらえる。環境省からの情報発信を確認してほしい。
- 活動のフィールドを調整していく上では、行政のほか、地域の海で活動している漁協や観光協会などと意見交換してコンセンサスを得ていくことが重要。
- これから取り組んでいこうという知識のない企業としては、どういうデータをどのように取っていったらいいかなどもわからないので、アドバイスをもらえたり相談できたりすると意味のあるものになっていく。
- 海洋調査の仕事をしている企業であり、機材もそろっているので、問い合わせてもらえれば協力できる。
- 藻場造成の課題を解決していくため、企業から資金を得られないかと考えている。企業の自然資本に関する取組として藻場造成が入ってくると、その流れが強くなってくると期待している。
- 企業の立場からすると資金が課題。環境面は大事であり、企業として強い思いを持って取り組んでいくという考え方が広がっていくと、資金援助等の投資も広がっていくのではないかと。
- 国交省の実証事業の概要を見ていると、他地域でも活用可能な「発展性」が審査基準となっていておもしろいと思った。藻場の多面的な価値を定量的に示したいと考えており、環境学習に関しても価値を持ったものとして見せたい思いもあり、いろいろなアイデアを形にしていくきっかけになるかなと思った。
- 藻場創出の取組は3年目で事業として進められるようになってきている。会社としては利益で見られる。社会貢献することや地域に根付くことなども利益であると思っているが、経営者に理解してもらうのが難しい。苦労はしたが、もっと大きくなっていくと信じており、ずっと続けていきたいと思っている。藻場を育てていくためみなさんの力を借りて進めていきたい。
- ワーキングにおける検討の進め方として、小規模のプロジェクトチームで取組を進めていけるよう、意見や要望を持ち寄って形にしていきたい。